

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	第6学年 外国語科 (10月) New Horizon Elementary 6 (東京書籍) Unit 5 We all live on the earth 第1時 (全8時)
②教科書を活用した授業づくりの工夫	岐阜市立長良東小学校 教諭 武部八重子

コロナ禍のため、今年度は「聞くこと」の領域に焦点を当てて研究しています。児童が主体的に「考えながら聞く」ことができるようにするための「魅力ある内容」「聞かせ方の工夫」「教科書や Picture Dictionary の活用方法」などについて、教科担任として実践しています。

【導入】Unit 3 で「ガラパゴス諸島へ行ってみたい」と話していた児童との対話から、英語のウェブサイト参照しながら自然豊かなガラパゴス諸島の様子と同諸島のゴミ問題について触れ、以下の課題を提示する。

世界の海や動物に何が起きているかを知ろう。

【展開】以下の①～⑦についての短い話を、画像や具体物などの視覚資料を手がかりに、内容を考えながら聞く。

- ① 世界にはたくさんの美しい海があること (「日本の海はどれ?クイズ」など)
- ② 世界の海にはウミガメなど多くの生き物が暮らしていること
- ③ 世界の美しい海が、人間が生み出したプラスチック由来のごみで汚されていること
- ④ ウミガメがポリ袋を食べ、絶滅の危機に瀕していること
- ⑤ マイクロプラスチックという、細かいプラスチックごみが、食物連鎖によって海の生き物を汚染していること
- ⑥ レジ袋やストローなど、私たちの身の回りには様々なプラスチック製品があり、それらを使い捨てるのが、地球上の生き物に影響していること (児童が家から使い捨てプラ製品を持って来るよう指示しておく)
- ⑦ 海以外にも、絶滅が危惧される生き物がたくさんいること(教科書 p48 を用いて)

【振り返り】単元終末の活動「私にできること宣言」について確認し見通しをもつとともに、本時英語を聞いて知った内容やそれについての自分の考えなどを日本語で書く。



「海の生き物当てクイズ」から (2)
What's this? Yes, this is *ashika*. What's this in English? No1, it is a sea tiger. No2, it is a sea lion. No3, it is a sea horse. Do you think it's a sea tiger?



「ウミガメが食べるものクイズ」から (2)
What do sea turtles eat? Sea turtles eat fish? Sea turtles eat jellyfish? Sea turtles eat squids? ... Let's listen to Hiroshi. (教科書の Starting Out を聞いて確かめる。)

But, I have some sad pictures. Look at this. This is a picture of *Okinawa*. What can you see? Yes, this is a plastic bottle. ... (3)

You know, sea turtles eat jellyfish, right? But, ...is this a jellyfish? (ポリ袋を食べているウミガメの写真) No, it is not. It's a plastic bag. What do you think? I think this is really bad. (4)

Do you know these? These are called microplastics. ... (魚の絵を描き) Small fish eat microplastics. Medium fish eat small fish. Large fish eat medium fish. Yes, it's "Food Chain." Do you eat fish? I eat fish. This is so scary! (5)



【振り返り】今日の内容を振り返って、「初めて知ったこと」「これから考えていること」を日本語で書く。

「やり取り」を通じて・クイズなどを織り交ぜたり問いかけたりして、学級全体を巻き込みながら

私たちは、外国語教育を通してどのような力を子供たちに付けたいのかを改めて考えさせられる実践です。単に「好きな食べ物」「欲しいもの」だけでは終わらず、「食べ物」から環境問題、「欲しいもの」から世界の子供たちの現状へと題材を広げていくことで、子供たちの身の回りのものへの見方が変わってきます。そのためには、教師自身が常に社会問題に敏感であり、常に様々なことに問題意識を持つ必要があると思います。私たち教師は、教育活動を通して、子供たちに、誰もが、人間だけでなくこの地球に住むすべての生き物が、生を受けたことを喜べる世界にする力を付けたいと、私は思います。
(文部科学省 視学官 直山 木綿子)